

佐藤晴彦先生のご退職にあたって

法学部長 石上 泰州

本学法学部教授の佐藤晴彦先生は、平成17（2005）年4月に本学に着任されてから、17年の長きにわたって、本学の研究、教育、そして大学運営に力を尽くしてくださいました。定めとは申せ、先生が本年度末をもってご退職されますことは、誠に寂しいかぎりの一言につきます。

先生は、昭和31（1956）年に福島県でお生まれになりました。東北大学医療技術短期大学の診療放射線技術学科で学ばれ、ご卒業後は診療放射線技師として、都内の厚生中央病院や社会保険第一検査センターでご勤務されました。そのかわり、中央大学の経済学部、そして同大学院の経済学研究科において経済学を学ばれ、平成14（2002）年には「公的年金をめぐる論点分析と自動調整メカニズム方式案の提言」により、中央大学から経済学の博士号を授与されました。放射線技師から経済学者へと転身される例は、とてもめずらしいのではないかと拝察いたしますが、先生の旺盛なチャレンジ精神と学問への熱意の賜物かと敬意を表する次第です。その後、ご縁がございまして、平成17（2005）年、本学に助教授としてご着任され、爾来、今日まで本学を力強くお支えいただいているところであります。

佐藤先生のご専攻は経済学・経済政策ですが、学位論文のタイトルにも示されますとおり、当初は、公的年金や医療保険制度を主たる研究テーマとされておられたようです。しかしながら、近年はご関心の幅を拡げられて、もっばら、少子化問題に取り組んでおられまして、我が国における少子化の原因とその解決策に関する優れた論考を次々と世に問われていらっしゃるようです。先生の問題関心は、単著としてご出版された書籍のタイトルであります、『子を持つために何が必要か、そして求められる支援とは？』において、端的に示されていると申せましょう。

なお、先生は、本誌『平成国際大学論集』や『平成法政研究』を論文の発表の場としていただくことが多く、近年は、両雑誌に毎号のようにご投稿をいただい

ておりました。論文のご執筆を通じて、本学会発行の雑誌の発展にひとかたならぬご貢献を頂戴していることに、あらためて御礼を申し上げなければなりません。

こうした先生の旺盛な研究熱は、活発な学会活動に支えられてのものかと拝察しております。先生は、日本人口学会や公共選択学会など、多くの学会でご活躍されておられましたが、特に、日本経済政策学会においては、関東部会の理事や幹事を長らくお務めになるなど、重責を担われてこられたとうかがっております。

本学での教育におきましては、先生は、経済系教員の中核として、長らく「経済学」「経済政策」をご担当されてこられましたが、加えて、「社会保障論」「少子・高齢化論」など、広く福祉政策に係る講義科目もご担当いただきました。かつて本学が法学部単科の時代に置かれておりました「スポーツ福祉政策コース」は、法学部においてスポーツや福祉に関心のある学生を対象としたコースでありましたが、このコースは、先生がご担当される講義なくしては成り立ちえなかったものと、あらためてそのご貢献に対し、感謝を捧げる次第であります。

また、本学が平成29（2017）年に新設しましたスポーツ健康学部は、法学部のスポーツ福祉政策コースを発展的に拡大したという経緯がございますので、設置の際、佐藤先生には、ひとかたならぬお力添えを頂戴しました。スポーツ健康学部は、スポーツの理論や実技に係るカリキュラムが中心ではありますが、同時に、社会科学的なアプローチによる、健康に係るカリキュラムを特色の一つに位置付けておりましたので、本学法学部において社会保障論や少子高齢化論を講じておられました先生には、当該分野での中心的なスタッフとしてご活躍いただくことを想定して、設置計画を進めてまいりました。学部設置の準備に携わっておりました身としては、人事を含めた諸々の計画が首尾よく文科省の認可を得られるものと心配を重ねる日々がありましたが、その点、博士号取得者にして優れたご業績が数多い先生は、誠に頼りになる存在でございました。佐藤先生は、本学スポーツ健康学部設置の功労者のお一人と申し上げて過言ではございません。

本学の運営に目を転じますと、先生は、教務委員会、学生委員会、入試委員会、広報委員会、図書館委員会など、ほぼすべての主要委員会の委員をご歴任されまして、まさにオールラウンドプレイヤーの観がございました。特に、入試委員会や広報委員会におきましては、副委員長の要職を長くお務めいただき、難しい舵取りが求められる業務に、大いに力を尽くしていただいたところでございます。

その他、先生は科研費を取得される常連でいらっしゃるにして、競争的資金の獲得が従前にも増して求められるなか、大学へのご貢献はきわめて大なるものでございました。このように、大学のため、そして学生のため、誠心誠意、ご尽力くださいました佐藤先生のご退職は、本学にとりまして、きわめて大きな損失と申し上げる他ございません。

末筆となりますが、佐藤晴彦先生の多年にわたる本学へのご貢献に対しまして、あらためて深甚なる御礼を申し上げますとともに、益々のご研究の発展を祈念申し上げます次第です。なお、先生には、教授職を退かれた後も、しばらくは非常勤講師として、教鞭をお取りいただくことになっております。引き続き、本学へのご指導、ご鞭撻を、よろしくお願い申し上げます。